

W. ミヒエル 編『蘭語訳撰』（逆引き版）……………	吉田 忠	121
大分県立先哲資料館 編『田原 淳』『田原 淳【普及版】』『田原 淳 資料集』 ……………	川島 真人	123
岡田靖雄 著『相馬事件——明治の世をゆるがした精神病問題 その実相と影響——』 ……………	橋本 明	126
月澤美代子 著『ツベルクリン騒動』……………	渡部 幹夫	128
小曾戸洋 著『中国伝統医学 名医・名著小百科』……………	松田 隆秀	130
書籍紹介		
F.A. ヨンケル・フォン・ランゲック 著 八木聖弥 監修 熊谷知実 翻訳 『瑞穂草——京都療病院初代外国人医師の日本文化論——』……………	永島 剛	131
投稿規定 ……………		133
編集後記 ……………		135

《本号の表紙絵》

国立療養所「長島愛生園」のガラス乾板写真

（長島愛生園歴史館所蔵）

この写真は、ハンセン病療養所である「長島愛生園」の昭和初期の園内の様子を写したものである。ハンセン病患者に対しては、古くから宗教者による慈善救済が行われてきたが、近代に入り日本においては1907（明治40）年に「癩予防ニ関スル件」が制定され、ここから隔離の方針が明確になっていった。特に1929（昭和4）年から始まった、各道府県ですべての患者を療養所に隔離・強制収容し一掃しようという社会運動「無癩県運動」により、ハンセン病（癩病）は「恐ろしい伝染病」という認識が喧伝され、患者に対する偏見と人権侵害が深刻になってゆく。このようななかで、1930（昭和5）年日本初の国立療養所として「長島愛生園」が開園したが、この写真は開園間もない昭和初期のものと思われる。写真手前の渡り廊下でつながっている建物は患者が入院する病舎であり、向かって右の白い建物は若い女性が入所する処女寮と言われる寮、写真の中央から奥の建物群は諸団体からの寄付で立てられた寄付寮であり、およそ10坪（約33平方メートル）の木造住宅であったところから「十坪住宅」とも呼ばれるものである。写真の中央一番奥の屋根に見張り台がついている建物は患者による観測が行われた気象観測所である。なお、同歴史館の詳細については <http://www.aisei-rekishikan.jp> を参照されたい。

（松村 紀明）